

旅する神秘の蝶 アサギマダラ飛来中

驚異の飛翔 2200 km アサギマダラの神秘

春から初秋まで園内で見かけるアサギマダラ。

この小さな蝶が日本列島を縦断、さらに南の沖縄や台湾まで延べ 2200 km以上を飛んでいくのです。

夏から秋にかけてはブッドレア（別名バタフライブッシュ）、フジバカマ、ヒヨドリバナ、アザミなどのキク科植物の花によく集まり、吸蜜する姿が見られる。幼虫はガガイモ科のキジョラン、カモメヅル、イケマ、フヨウランなどを食草とし、卵も食草の上に産みつけられる。幼虫の食草となるガガイモ科植物はどれも毒性の強いアルカロイドを含む。アサギマダラはこれらのアルカロイドを取りこむことで毒化し、敵から身を守っています。

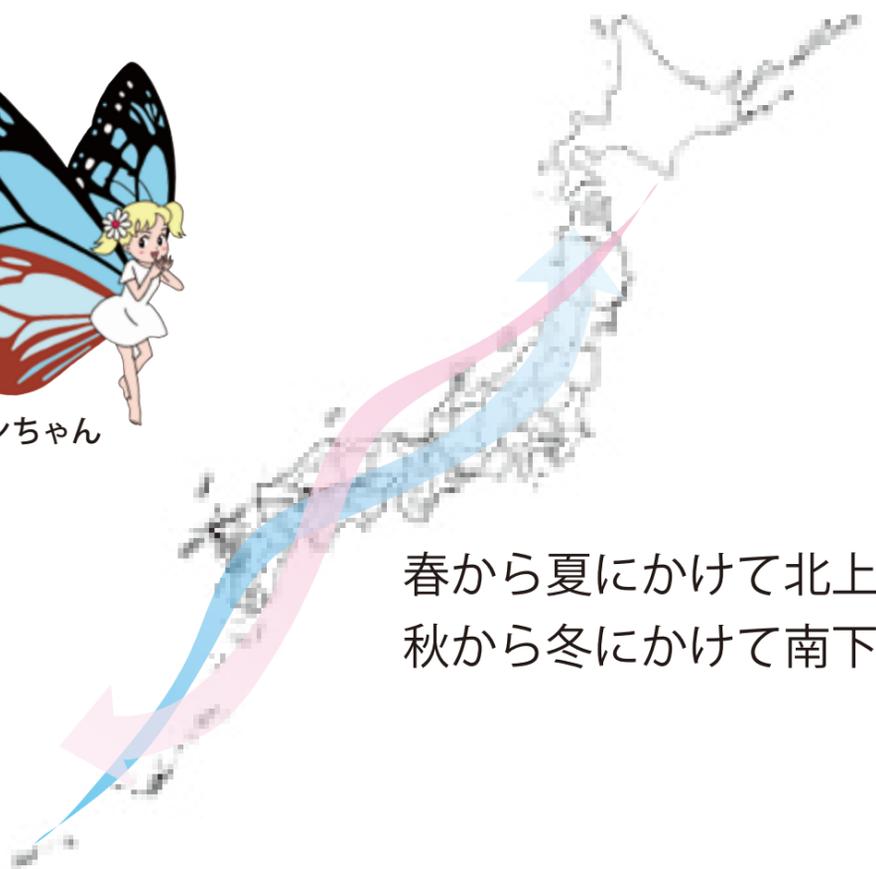
アサギマダラは気温 25 度のところを好み暑くなると北上し、寒くなると南下します。花公園では標高が高いため長くとどまっています。



▲フジバカマに止まるアサギマダラ



マダランちゃん



春から夏にかけて北上
秋から冬にかけて南下